

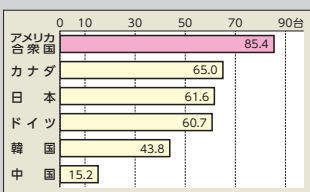
デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.104-105 アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題
2. 目標
 - (1) 車社会化に代表されるアメリカ合衆国の大量生産・大量消費の生活様式の特徴と、その課題を理解することができる。
 - (2) アメリカ合衆国の生活や文化の特徴や課題から、持続可能な社会を解決するための解決策を主体的に追究することができる。

3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・アメリカ合衆国の大量生産・大量消費にみられる生活や文化の特徴を理解している。
思考・判断・表現	・アメリカ合衆国の持続可能な社会への取り組みについて多面的・多角的に考察している。
主体的に学習に取り組む態度	・アメリカ合衆国の生活や文化の特徴や課題から、持続可能な社会を実現するための解決策について追究している。

4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. 「駐車場に囲まれた大リーグのスタジアム」を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. 予想した内容を話し合い、学習課題への見通しを持つ。	 p.104 1 写真を見て気付いたことを挙げてみよう。 アメリカ合衆国で生まれ世界に広まった生活様式や文化とその課題を予想してみよう。	○ 広大な駐車場に囲まれたスタジアムの風景を見せながら、本時への導入を図る。 ○ 身近な風景や経験と比較させながら、気付いたことを自由に発表させる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
	学習課題：アメリカ合衆国の人々の生活には、どのような特色があるのだろうか。		
展開	3. アメリカ合衆国では車社会が形成され、大量生産・大量消費の生活様式になっていることを理解する。	 p.104 2 アメリカ合衆国の自動車保有率が高くなっているのはなぜだろうか。  「ロサンゼルス的高速道路」	○ アメリカ合衆国は人口あたりの自動車保有率が高い理由を考えさせる。 ◆ 高速道路網の整備や広大な駐車場が整備されたショッピングセンターなどの特色を理解させる。 ◆ アメリカ合衆国は世界で最初にも車社会が始まり、買い物などにも自動車で行くのが当たり前であることを理解させる。 ◆ 車社会化に関連して、大量の商品が購入できることから大量生産・大量消費につながっていることに気付かせる。

展開	4. 資料から、アメリカ合衆国の生活様式がもつ課題を読み取る。	3 アメリカ合衆国生まれの大企業の本社 地図帳 p.65 ③ あなたの生活の身近にあるものを探してみよう。 アメリカ合衆国 2.4億(2015年) 燃焼 12.8% リサイクル 34.7 埋め立てなど 52.5 EU28各国 2.3億(2016年) 5.6% 47.7 46.7 日本* 0.4億(2017年) 80.3% 18.7 1.0 アメリカ合衆国 2.4億(2015年) 燃焼 12.8% リサイクル 34.7 埋め立てなど 52.5 EU28各国 2.3億(2016年) 5.6% 47.7 46.7 日本* 0.4億(2017年) 80.3% 18.7 1.0 * 災害廃棄物を除いた値です。 p.105 4 アメリカ合衆国では大量の廃棄物が埋め立て処分されており、自然環境に負荷がかかっていることに気付かせる。 p.105 5 アメリカ合衆国の廃棄物処理方法の特徴を挙げてみよう。 ガソリンの消費(供給)量 二酸化炭素の排出量 合計 11億t アメリカ合衆国 37.3% 中国 11.5 日本 3.6 ロシア 3.1 メキシコ 3.0 ブラジル 3.0 カナダ 2.9 合計 328億t 中国 28.2% アメリカ合衆国 14.5 インド 6.6 ロシア 4.7 日本 3.4 ドイツ 2.2 その他 40.4 p.105 6 p.105 7 図から分かるアメリカ合衆国の課題を挙げ、そこから考えられる具体的な問題と、解決策を考えてみよう。	○ アメリカに本社がある有名な多国籍企業を挙げさせる。 ◆ 車社会化や大量生産・大量消費以外にも日本で一般的になっているアメリカ合衆国由来の文化が多いことに気付かせる。 ○ アメリカ合衆国は日本の約5倍の廃棄物が出ていることに気付かせる。 ◆ アメリカ合衆国では大量の廃棄物が埋め立て処分されており、自然環境に負荷がかかっていることに気付かせる。 ○ アメリカ合衆国の1人あたりのガソリン消費量が特に多くなっている理由とその課題を考えさせる。 ◆ 車社会化は資源の大量消費にもつながり、温室効果ガスの排出から地球温暖化につながりかねないことに気付かせる。 ◆ アメリカ合衆国の課題に対する解決策を考えさせる。 ○ 身近な解決策から企業や国家レベルの解決策まで、さまざまな意見を出させる。
	6. 本時のまとめをする。	持続可能な社会を目指す上で、アメリカ合衆国の生活様式にはどのような課題があるのか、説明しよう。	◆ 生活様式として定着してしまった車の利用や大量生産・大量消費といったスタイルが、ガソリンの大量消費や大量の廃棄物につながり、地球温暖化などの環境問題に影響する可能性があることを説明できたか確認する。
	7. 学習課題への振り返りの活動を行う。	「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。	○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。
	8. 「節の学習」の振り返り活動を行う。	北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。 この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。	○ 「節の振り返り」へ記入させ、次節の学習へつながりを持たせる。